

挨拶 2015. 11. 29

近畿双松会 会長 松本耕司（高16）

皆様 こんにちは。

私は、去年の総会で11期の押田前会長様からバトンを受け、会長を仰せつかりました16期の松本耕司でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日はすばらしい天気にも恵まれ、こうして多数の皆様にご参加をいただき、真に有難く、嬉しく存じております。厚く御礼を申し上げます。

また、松江から、双松会の勝部副会長様、金平幹事長様、母校からは泉校長先生、校内幹事長の鳥屋尾先生、そして、本日の講演会講師をお願いしております清水松江市教育長様には遠いところをお運びいただき、厚く御礼を申し上げます。

また、この近畿の地で日頃ご支援をいただいております近畿松江会からは竹谷幹事長様が、さらには、本年からこの近畿の地で生活を始められました学生ゲストの皆様6名にもご参加をいただきました。

後ほど、個々にはご紹介をさせていただきますが、まずもって高い席からではございますが、ご来賓の皆様には厚く御礼を申し上げる次第でございます。

さて、役目でございますので、型どおりのおさらいをいたしますと、母校は明治9年1876年の開校ですので本年が139年目となります。大変な歴史を重ねてきております。

また、近畿双松会も90年前の大正の末には当時の旧制松江中学の先輩の皆様により活動が始められたと聞いております。

そして、不幸な戦争の時代の中断がございましたが、昭和33年1958年に言わば第二次の近畿双松会の活動が再開をされ、そこから数えて今回が57年目となります。因みに、東京双松会は丁度今年が60周年目ということです。

いずれにしても、戦後だけでも大変な歴史を刻んできていることを、皆様とともにあらためて確認いたしたいと思っております。

その間、新制の松江高校は昭和36年1961年、北高と南高に分かれ、昭和58年1983年には東高ができて、松江市内には普通高校が3校あるという、

これはこれで又、大変な状況が今日まで続いております。

私とは申せば、平成14年2002年の甲子園21世紀枠出場の頃から、近畿双松会の事務局のお手伝いをさせていただくようになりました。

その頃は、なかなか北高世代の方々のご参加が思わしくなく、「北高世代の参加の拡大」が私に与えられた仕事でした。

考えてみますと私の16期は北高としての入学2期目になりますので、「やらねばならぬ世代なのだなあ」と思ったことを昨日のこのように思い出します。

そして、今日、こうして昨年と変わらず総会を開催することができて、本当に喜んでいる次第でございます。

この間の経験から、ひと言申し上げさせていただくなら、やはり先輩は親や兄、姉のように尊敬しなければならない。同輩とはいつまでも励まし合っていかなければならない。後輩は弟、妹、また子供のように慈しんでいかなければならない、ということでございます。

当たり前のことのようにですが、その方が、明らかに人生がふくらんでいくな、と実感いたしております。

そのためにも、こういった会は楽しくなごやかな会でありたいと、心から思っております。そう思いながら私の責任を果たし、また次の世代にバトンを渡していければと思っておりますので、引き続きのご理解、ご支援、ご参加をどうぞよろしくお願いいたします。

今日の学生ゲストの皆さんの中には、高野山で修業を始められた方もいらっしゃると思います。「聖地高野山」から下界に降りてきていただいたことになります。私は曹洞宗であります。今日一日は弘法大師さんの「ふところ」にいだかれないと思っております。

また、私の同期で兵庫県立大学の学長でいらっしゃる清原正義さんも駆けつけていただきました。現役の学長に出席いただける会も、そんなにはないだろうな、と有難い思いで一杯でございます。

「楽しく、なごやかに」を合言葉として、この場を過ごさせていただければと思っておりますので、皆様のご協力を、どうぞよろしくお願い申しあげまして、簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日のご参集、真に有難うございました。

以上